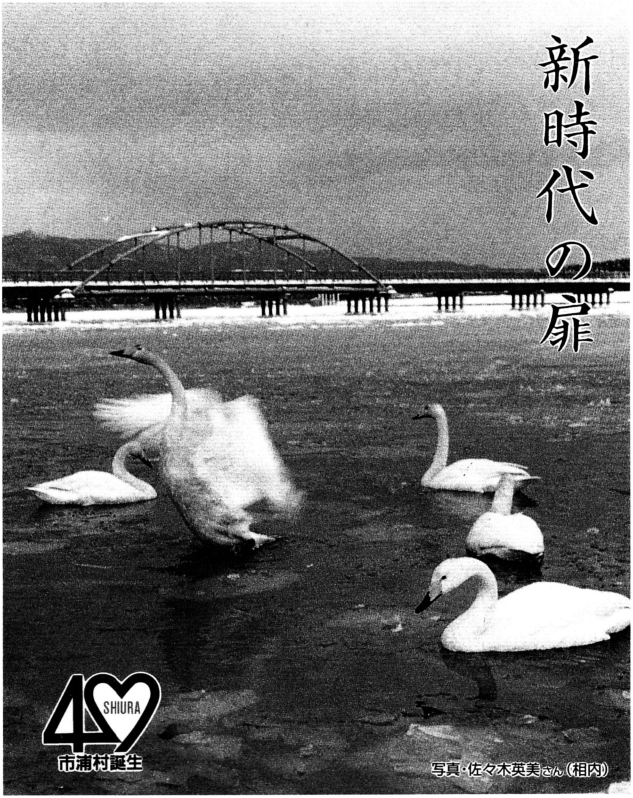
広報
しうら
No.299
平成7年 1月号



写真・佐々木英美さん（相内）

発行・青森県市浦村役場／編集・企画観光課広報企画係

新年のごあいさつ

村長
髙松隆三

雨ニモマケズ
風ニモマケズ
身ヲ粉ニシテハタラキ
不況ヤ因作ヲ吹リコエ
ミンナソロッテ新年ヲ
ムカエラレタコトハ大変
喜バシイ限リデアリマス

デモ新シイ年ハ良イコト
バカリデハアリマセン
百円ノ缶ジュースガ
高イト思ワナイヒト逢ガ
茶碗一杯三十円ノコメガ
高イイッテソノコメヲ
自由化ニシマシタ
ドウシタラ市浦ノコメヲ
売ルコトガデキルカ頭ガ
痛クナリマス

二十一世紀ヲ生キル若者ガ
コドモヲ産ムコトヲ
イヤガリソノタメ日本ノ
人口モトウトウ人口減少
時代ニハイリマシタ
コノママデハ保育所ヤ
小学校バカリデナク
高等学校ヤ大学ヤ予備校モ
アマルコトニナリマス

円ガアガリ株ガサガリ
価格破壊ガオコリ景気モ
ナカナカ良クナリマセン
コノ先ドウナルノカ少シ
心配デスガ心ヲ
オソレテハイケマセン

人ハミナ重イ荷物ヲ
背負ッテ共ニ旅スル仲間
デアリマスオタガイニ
助ケアッテ生キガイヲ
見イダス世ノ中ヲツクル
タメ私ハ一生懸命
ガンバリマス

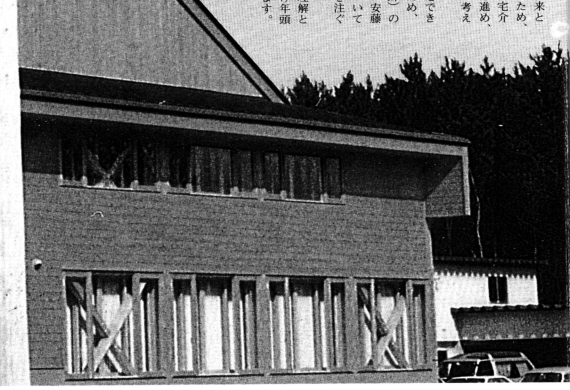
そんな村のあしたに想いをこめて

一、農業新時代を生き抜くために想案であった圃場整備や、快適な地域づくりのための下水道整備事業にも着手したいと考えております。また水産物の鮮度保持と価格安定のための貯水庫の建設や特産品の販売・交流センターの建設にもとりかかりたいと思っています。

二、超高齢化社会等の到来と村民の健康志向に応えるため、新しい型の温泉開発や在宅介護支援センターの建設も進め、福祉の拠点づくりを図る考えであります。

三、また、国際化に対応できる青少年の育成を図るため、国際交流員（外国人教師）の招致を進めるとともに、安藤氏の遺跡発掘の充実についても、これまで以上に力を注ぐ考えであります。

どうか村民皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ年頭のごあいさつといたします。



決意を新たに

議長
浜田春士

村民の皆様、明けましておめでとうございます。

ご一家お揃いで、すこやかに輝かしい新年をお迎えのことと存じます。

さて、村議会運営につきましては、常日頃からご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、心配された農作物も、近年にない好天に恵まれ、豊作となり、政府売渡限度数量、多用途利用米共に完納し、トマトについては連続一億円台の販売を確保し、畜産についても取引価格が上昇傾向にあり、今後の価格の回復に期待をしているところであります。

また農業共済組合の広域合併、津軽西部畜産基地建設着工、農道整備、特産品加工センターの建設、十三、脇元漁港の拡張等村当局と協力し、進めてきたところであります。

しかし、社会経済の情勢は大きく変化をしており、そのなかで、村議会としては、その対策に取り組んでいるところであり、昨年十二月議会で制定承認された、過疎地域活性化計画による平成七年度から平成十一年度までの後期五ヶ年計画に基づく、圃場整備事業、野菜育苗施設の増設、有機物資源活用センター建設の推進、脇元、十三両漁港の整備、特産品販売センターの建設、観光レクリエーション施設の整備による産業の振興、主要村道、農道の整備による交通体系の整備、集落排水施設の整備、共同畜産場の建設による生活環境の整備、海水温泉施設（タラソテラピー）による高齢者福祉の増進及び医療、教育施設の整備等村民のニーズに的確に対応する考えであります。

行政需要は、社会経済により、変化しており、そのため市浦村議会としても、行財政改善の一層の推進を図る所存であり、次回村議会議員一般選挙からは、現定員十四名を十二名とする条例を制定したところであり、村民の皆様のご理解をお願い申し上げます。

本年は、昨年実施した海外研修を糧に一層の研鑽を重ね、議会活動を活性化させ、真に村民に開かれた議会として、その果たすべき役割と、責任を自覚し、村民の皆様のご期待に添うよう、決意を新たにしているところであります。

ここに、市浦村民の皆様のご多幸をお祈り申し上げますと共に、本年も相変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新春座談会

新しい時代の地域づくり

新しい年を迎え、いかがお過ごしでしょうか。今月号では、さまざまな分野で活躍される四人の方に、村長とともに「新しい時代の地域づくり」について、大いに語っていただきました。

親子三代が豊かさを実感できる村づくり

司会　新年明けましておめでとうございます。

本日は、「新春を語る」ということで、村のさまざまな分野で活躍される皆さんにお集まり頂きありがとうございました。昨年は、観光立村十周年、今年は市浦村合併四十周年という節目の年を迎えるわけですが、最近、村長より「新しい時代の到来」ということが言われていますが、そのへんを詳しく、また、皆さんから意見を伺いたいと思います。

司会・山内守栄

村長　今、新しい時代という話がありましたが、今までの私たちの考え方というのは、人口は増えるもの、経済は成長するもの、それが当たり前だった訳です。しかし、造船産業にしろ、最近では、日本経済を支えてきた自動車産業も力を失ってきている。景気もじわりじわりと沈んできており、メディア産業は伸びてきているが、自動車産業に変わる程の力にはなれない。いわゆる一つの時代が終わったのではないかと思う。

また、子供の数が減り、高齢者が増えてきた。経済的には子供産業がまずダメになる。また、教育産業全体もダメになる。農業問題にしても、米の自由化ができた。こういう時代の変わり方というものを認識しておかないと、村づ

奈良幸雄

横山菊子

山田つせ子

榊原滋高

高松隆三村長

くり、村の経営が成り立っていかない。このような社会に今からどう対応していくか、十年、二十年はあっという間です。

今年生まれる子供が二十歳になる頃には、村の人口は二千人を切ることが予想されます。高齢者は二人に一人の割合になります。二十一世紀は必ずしも明るい世紀ではないということ、こういうことを私は新しい時代、そのために今年は新しい時代の始まりで、私たちの地域はどうあるべきか、皆さんと一緒に考えたいと思います。

奈良 まったく難しい問題です。今のままの考えでは、村の将来は見えてきませんし、経済的な問題、人口問題など、新しい時代にどうしたら良いかというと、大変難しいですね。

山田 奈良さんも言われるように非常に難しい問題だと思います。ただ、私も今でいうUターン組の一人ですが、市浦には、どこにも負けない雄大な自然があります。この自然を生かした環境づくりで、若者に魅力ある地域づくりができると思っています。

榊原 僕は出身は愛知県、大学は富山県、就職はここ市浦なんですけど、今まで自分と無縁だと思っていた高齢者問題、農業問題、人口の過疎化など、最近現実味を帯びてきました。ただ、人口が少ないということもあってか、村の人たちにも親しみやすく、それにすごく親切なんですよ。僕はこの土地で暮らしていくことに自信がもてました。そういうメリットもあります。

僕は、市浦の歴史を解明していこうということで来ましたが、市浦の歴史や文化を広くPRしていきたいと思ってね。

村長 人口減の問題など、皆さん難しいと考えているようですが、私逆に、人口が半分になったとすれば、そこに住む人の財産が倍になったという視点でモノを考えると、豊かな暮らしというのが見えてくるような気がします。理想とするのは、親子三代が住めるような村、これが本来の健全な社会だと思います。そこに住む人が豊かさを実感できて、自然もあり、歴史もある。そのような村づくりも考えた。人口減少、超高齢化社会の到来など、現実は現実として直視して、その中で魅力ある地域づくりはどうあるべきかを考えたい。次の世紀は若者の世紀でありながら、子供を生む若者が少なくなった。若者がそれを選択するわけがない。本来の姿ではない。人口問題というのは、そこの地域にいる人が満たした生活をできるかどうか、ここがポイントだと思います。

榊原 人口減少とはちょっと意味あいが違うかもしれないけど、村の青年たちがいろんなことに出ていくのは、いいことだと思うんですよ。いろんな経験をして、人生経験や豊富にした方が。僕もそういう意味では、こっちに居るんですけど、自分の住んでいる地域に、誇りが持てる地域づくりができれば、自然に若者も帰ってくると思います。

奈良 わが家では、子供が五人いますが、一人も家に残っていない。毎日、孫の顔も見れないというのは淋しいことです。ランドセルしょって、家の前を通る子供も二人しかいない。町内会の集まりでも若い世代の人がいない。本当にこれからどうなるんだろうと思います。

私は、会長ということで、悠遊郷についても述べさせて頂きますが、現在、ものすごく利用率が高いです。やって来るお年寄りの皆さんも「極楽だじゃ」って喜んでくれます。職員の皆さんもよくやってくれますし、楽しみの一つとして利用していただけたらと思います。何かあった時でも診療所とつながっていますので、医者も来る、看護婦も来るという体制ですので安心です。

座談会出席者

○奈良幸雄さん（市浦村社会福祉協議会長）
○横山菊子さん（市浦村農水産加工センター勤務）
○山田つせ子さん（中の島ブリッジパーク勤務）
○榊原滋高さん（市浦村教育委員会学芸員）
高松隆三村長
山内守栄企画観光課長（司会）

自分の健康は自分で 地域の健康は地域で守らなければ

保健・福祉・医療の統合時代へ

司会　ここで、村長より高齢者対策について述べてもらいたいと思いますが。

村長　新しい時代の始まりに対して、新しい意識改革が必要だと言いましたが、高齢者対策にしてもその通りで、今までのような低所得者、社会的弱者だという見方で、高齢者を位置づけてはならない。人生八十年時代に突入し、高齢者というのも、所得や資産の面だけでなくて、健康や知識、経験の面において、多様な幅のある集団であるという考え方をしていかなければならない。安易に施設や地域に依存するとかでなくて、元気なお年寄りは自立していくという、悩めるお年寄りを助け合うという、自分の力や知識をそういう方向にしむけていく社会システム、自分の役割が社会全体を支えているんだと意識をもたせることが大切だと思います。

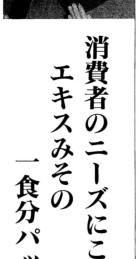
だから、高齢者対策というのは、例えば、今まで車を運転していた人が出来なくなった場合、そういう人には、手厚い看護をするサービス的なものを強化していかなければいけないし、逆に、まだまだ元気な人には、積極的に社会参加をしてもらう、そういうシステムをつくることだと思います。

保健と福祉と医療についても、これからは提携というよりも、その先を考えると統合、一本化という充実したサービス体制を考えなければいけないと思います。平成七年度には在宅介護支援センターの建設、いずれは特別養護老人ホームの建設など、悠遊郷もあれば、診療所、また役場の住民福祉課もある。そういう体制づくりをしないと、これからの超高齢化社会に対応できないと思います。一年や二年でできるものではないにしろ、期間をかけて、状況を見ながら努力していきたいと思います。もちろん、行政だけでなく、一般の参加者やボランティアの皆さんの協力も必要になります。

ここで一つの例を紹介しますが、私は、ボランティア銀行なるものがあれば考えています。一時間ボランティアしたならば、一時間貯金しておく。自分が老後になって動けなくなった時に、自分で貯金したボランティア銀行から払い出して、逆に時間分のサービスを受ける。そういうシステムづくりを考えています。そうすれば、社会参加しやすく、お互いが地域で支え合う福祉社会が形成できると思います。

温泉の開発にしても、高齢社会に対応した新しいタイプでできないだろうかと考えると、市浦は日本海に面しているというのを生かして、青い医学と称される海水温泉という、うたいのを考えるわけですね。現在、検討中ですが、寝たきりになった場合でも、塩分が高いために、人で浮き、自分の背中が床から離れ、フロに入れるという開放感、すばらしい価値感の高いことだと思います。アトピー対策や婦人健康志向からいってもそのとおり、新しい時代ということに描くとしたならば、連動して何ができるかということを考えると、いろいろなことができてくるのです。

これからの道路行政もそうであります。道路は、福祉や高齢に関係ないと言うかもしれませんが、高齢者や婦人用に道路を広げて低速車線をつくってあげることが、高齢福祉に対応した施設づくりであると思います。土木も温泉も医療も何事もトータルで考えなければいけないし、何十年かかっても、今からそういう準備をして、できるものから取り組もうと思う。今、何をすべきかと問題意識をもつと限りなくてくる。前向きな発想には、新しいものを生みだしてゆく力があるわけだか



消費者のニーズにこたえ エキスみその 一食分パックも商品にしたい

中世の港町をイメージできる場所として 中世の山城「唐川城」を整備したい

ら、これからも、こういう気持ちを持ち続けたいと思います。

奈良　村長から、高齢者対策などさまざまなお話を頂いたわけですが、太田地区でも今年、身近な健康づくりとして減塩運動や食生活の改善思想を普及させたいと考えています。自分の健康は自分で守る。地域の健康は地域で守るということを本気になって取り組むべきだと考えています。保健婦や保健所などと協力して、小さな単位でもいいからそういう健康づくりを進めていこうと思っています。

山田　私もあらゆる健康食品情報なんかを利用して、普段の食生活なんかでも、野菜を多くとるとか工夫していきたいですね。

海水温泉で限りない未来が広がる

司会　高齢者福祉に海水温泉、健康食品ブームなどとくれば当村のシジミエキスみそも人気があります。健康志向をお持ちの方の表われであるが、海水温泉について村長からもう少し詳しくお願いします。

村長　塩というのが、現在、温泉というものを、国際学会は観光と連動できるし、自然の海水を利用した温泉というのも全国に例がない。いろんな交流でアイデアが広がり、図りしれない地域の振興につながっていく。人口がいくらなになろうと、豊かな誇りたかった生活ができるのではないかと期待をかけてゆく。今、そういう時代に変わろうとしている。温泉塩も、塩分濃度を考えると、イスラエルの死海の塩でないといけない。そこでまた、国際交流だとか、中東、ヨルダンなどとの交流が生まれる。

これからは、国際的な視野で、外国の地域と日本の地域が直接結びあう時代。夢をいかに実現させるか、国際的な視点でモノを考えていきたい。

山田　クラソテラ

地域があたたかく人もあたたかい そんな感じで観光客に接していきたい

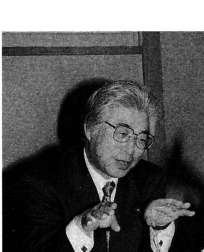
あった十三湊。歴史というのは観光と連動できるし、自然が興味を持っています。ぜひ、国際的な見方で、市浦が先駆けて実現してもらいたいです。

横山　塩の化粧品って、本当に体にいいんです。今では、食品や洗顔などにも、塩の利用価値は本当に高いです。ぜひ、実現してほしいです。

奈良　寝たきりが床から離れるというのは一番幸せ。ぜひ早い機会に実現を。

ビーって、すごく興味がわきます。今、塩のブームで国民が興味を持っています。ぜひ、国際的な見方で、市浦が先駆けて実現してもらいたいです。

座談会の様子



タラソテラピーは国際学会を開くほどの展望で世界的な広がりの中に位置づけたい

十三湊遺跡には世界が注目

司会 地域振興ということでは、村では観光だけでなく、第一次産業や企業誘致にも力を注いでいますが、村おこしの目玉として観光にたずさわっている、山田さんの方から何かありましたら。

山田 中の島は観光の玄関ということで、私も責任を感じています。来るお客さんは一生に一度しかこない人もいるので、その人に対して悪い印象を与えると、村全体のマイナスイメージになりますから、毎日が初心、緊張の連続です。

最近では、外国人の利用も増え、国際化ということも感じてきました。だから、村内の案内板や観光パンフレットでも、もうひと工夫はしたいですね。ここ数年、県内あちこちでパンゲアーが増える中で、お客さんは減ることはないので、何をしたら喜ばれるか、今度は何が必要なのかなど考えて、これからも、出来る限りのサービスで接していきたいと思います。建物は古くても、中味はあたたかく、人もあたたかくって感じで、これからも取り組んでいきます。

横山 私も仕事柄、たくさんの人と接するわけですが、自分の魅強不足を時々感じます。観光で来る人は、どこにどんな歴史があって、どんな物があるのか聞かれますので、それに答えられなかった時、一番困ります。

最近、加工センターでつくっているシジミキムチみそなどが、テレビや新聞などで取り上げられ、お客さんの要望として、びんではなく、一食分ずつのパック詰めできないかとかありますので、そういうのも検討しなければと思っています。あとは早い機会にパンフレットをつくりたいですね。

樋原 安藤の歴史と関わる観光の比重は大きいんですが、藤ノ沢の十三湊、観光とタイアップさせて、歴史と文化のある市浦村に来てもらう目的の人を呼びたい。十三湊を今後史跡指定にしていこうという方向もあるが、現時点では難しい気もします。同じく、町屋の復元なども問題が出積みされています。

僕が今思っているのは、安藤の十三湊遺跡の発掘はもちろん、唐川城の整備で考えられる。おそらく中世の山城を考えられます。あそこに登った景色は本当にきれいで、近い将来、日本海も見える、十三湖の港も見える、中世の港町がこうだったんだとイメージできる場所として、整備していきたい。景色が良いところとは、単に遺跡の案内板があるより、何回行ってもいいというメリットがありますからね。

司会 皆さんから観光についてのお話を伺いましたが、長くから観光への思いなどを。

村長 観光事業というのは、非常にわずらわしい商売ではあるのも確かですが、新商品の開発等も進めることとしていますのでアイデアなどお聞かせください。また農水産加工センターでは、エキスみそがテレビで全国中継で紹介され、かなりの注文があったとの事ですが、一段落しましたかね。

屋、館跡、港湾などうい復元するのか、あるいは市浦全体を博物館構想とし、どう位置づけ、また、観光地としてどうお結びつけるのの論議しなければいけません。

観光は、お金だけではなく、多くの専門職員も必要なことから、人材派遣についても、国・県に要望しています。

先程、中の島の外国人の利用が増えて来ているとの事ですが、もはや施設やガイドブック等も数ヵ国の外国語表記の時期に来ている。国際交流も西洋だけではなく、アジア大陸とも交流も必要である。

観光は、地域活性化の大きな力となる。第一次産業から加工の二次産業、販売の三次産業まで連動する全次産業が発展する要素がある。資源のたくさんある村でそれをどう活かすのか、これからの地域振興の大きな課題ですね。

樋原 安藤の歴史と関わる観光の比重は大きいんですが、藤ノ沢の十三湊、観光とタイアップさせて、歴史と文化のある市浦村に来てもらう目的の人を呼びたい。十三湊を今後史跡指定にしていこうという方向もあるが、現時点では難しい気もします。同じく、町屋の復元なども問題が出積みされています。

僕が今思っているのは、安藤の十三湊遺跡の発掘はもちろん、唐川城の整備で考えられる。おそらく中世の山城を考えられます。あそこに登った景色は本当にきれいで、近い将来、日本海も見える、十三湖の港も見える、中世の港町がこうだったんだとイメージできる場所として、整備していきたい。景色が良いところとは、単に遺跡の案内板があるより、何回行ってもいいというメリットがありますからね。

司会 皆さんから観光についてのお話を伺いましたが、長くから観光への思いなどを。

村長 観光事業というのは、非常にわずらわしい商売ではあるのも確かですが、新商品の開発等も進めることとしていますのでアイデアなどお聞かせください。また農水産加工センターでは、エキスみそがテレビで全国中継で紹介され、かなりの注文があったとの事ですが、一段落しましたかね。

特産品開発コンクールでこだわり商品を生む

司会 村では、特産品加工センターを建設しいよいよ本格的に稼動しますが、新商品の開発等も進めることとしていますのでアイデアなどお聞かせください。また農水産加工センターでは、エキスみそがテレビで全国中継で紹介され、かなりの注文があったとの事ですが、一段落しましたかね。

人に満足感を与える事は絶対不可能であり、その事を踏まえて事業を行う必要がある。

観光は、その地域を訪ずれ、観光は、その地域の誰かと会い、応対で第一印象が決まることから、全て の村セールスマンになるなかいといけないのでは。

観光事業を導入しようとした時に、観光ではメシが食えないなどと消極論があったが、中の島も安東の歴史も市浦の顔となり、十年経過してようやく評価され始めている。

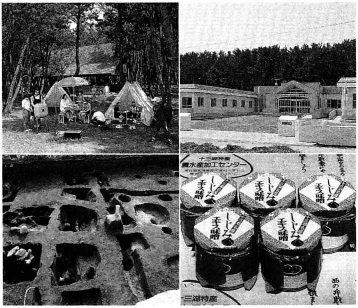
やはり事業の計画には十年先、二十年先の将来展望に立つ必要がある。

反面、施設面の充足に比べて人づくりなどソフト面で遅れが見られることから、地域リーダーの育成や民間活動の活発化を期待しています。

十三湊遺跡の解明については約二十年位かかるだろうが、その過程のなかで、士型、町

新しい時代へ

海、空、地、湖
資源の豊かな市浦村
さまざまな視点からみんなで
いろいろな知恵を出しあう
やがてまちづくりは
新しい時代の潮流となる



高齢者の交流拠点「悠遊郷」（右上）健康志向の中で注目されるシジミエキスみそ（右下）観光の玄関口「中の島ブリッジパーク」（左上）遺跡発掘で安東氏の歴史文化を探る（左下）

横山　十月四日にズームイン朝という番組で『こだわりの一品』ということでエキスみそを紹介。放送と同時に電話は鳴りっぱなしで十一月の中旬まで続きました。その後新聞にも取り上げられ、注文が殺到し現在は少し落ち着いています。その後も反響は大きく、シズミエキスみそだけで一万個程発送しました。

ただ、自家製の手づくり味噌を使っているので、このままでは、味噌の品切れも予想されることから、次の味噌が熟すまで目下の悩みです。

マスコミの力は偉大で放送を縁に口コミも広がる等うれしい悲鳴を上げています。

司会　特産品について具体的なアイデアをお話しください。

山田　中の島で受付をしていると、おみやげやさんの場所を聞く人が多い。一ヵ所のお店で村内の全てのおみやげを買える施設もそろそろ必要かなと思うのですが、今年特産品販売センターも建設予定とのことですから、多くの方々に買っていただかなくては。

榊原　昨年三内丸山まんじゅうが開発されたように、市浦村でも歴史を活用したネーミングにより買ってみたくなるような工夫も必要ですね。

横山　農水産加工センターでは、シジミエキスあめやシジミせんべいの体験コーナーもやってみたいですね。

奈良　これからの米の生き残り等の一つとして米を利用した土産品が必要です。やっぱりネーミングは大事ですね。

横山　市浦といっても解らない人でも十三湖と言えば解る人が多いです。

村長　モノを作れば売れる時代ではなく、商品も付加価値やこだわり商品でなければ売れなくなっている。

特産品開発コンクールで地域性を活かした商品づくりが出来るといいですね。保健所の許可を取れば何も大きな工場でなくても良い訳ですから。

商品が売れるためのＰＲも必要ですし、作った人の顔や経営姿勢が見えるなど消費者との情報交流や意向をつかむことも大切です。

横山　農水産加工センター独自の商品紹介パンフレットを作りたいですね。

最近、エキスみそを一食分のパック詰して欲しい声が多くなっていますので、将来はその機械も必要です。

自給自足できる村 安心して暮らせる地域を次世代へ

司会　予定時間を大部経過しているので、そろそろ村長にまとめをお願いします。

村長　新春に語るということでしたが、観光、福祉と歴史が主だったようで、農業、漁業、教育は時間切れとなり、物足りない方もあるかと思われます。

二十一世紀が間近だからではなく、もう今年から新しい時代の幕明けが始まっています。今年は市浦にとっていろいろな節目の年となります。村が合併して四十周年、二十一世紀まであと五年、あるいは戦後五十年、平成に入って七年など。しかも情勢は今までと様変わりしていることから、お互いが認識しあい、新しい感覚でそれぞれの地域や分野を切り開いていく事が今年の大きな課題になるのではと思います。

また、情報化時代では常に情報を発信続けなくては、すぐに忘れられます。反面、新しい事柄に集中すると今までの事実も失いがちです。

我々はじっくり足元を見ながら自分達の情報を出し、訴える必要があり、そうする事により、相手方からの情報も入手できます。このことは行政のみならず、各種団体との連動により大きな情報の受発信源となりますよ。

市浦には、肝臓に良くて、ボケ予防に効果があるシジミや夏場でも食べられるカキや市浦牛があり、素晴らしい自然もあり、健康的な生活が保障されています。しかも、石油がダメになっても、薪もあり地面を掘れば水は湧く。魚は豊富というように自給自足のできる村でもあります。

これ位、自然と共存できる村はなく、私は講演などでは「市浦は独立できる村だよ」とＰＲしています。

このように恵まれた村だからこそ皆で知恵を出しあい、次世代に安心して暮らせる地域づくりを財産として引き継ぐことが我々の責務と思われます。

今日は、貴重なご意見ありがとうございました。

司会　皆様ご苦労様でした。農業や漁業、教育面については次の機会に話し合いたいものです。

今年も良い一年でありますようにお祈りいたします。

'94ハイライト

大豊作やイベント開催など明るい話題が多かった'94年。市浦村誕生四十一周年を迎え、今年もよい一年でありますようにー。

8回目となる奥州藤原三代ゆかりサミットを市浦村で開催

県内外から多数の観衆を集めた姫神・奥津軽十三湖コンサート

観光立村10周年を記念した総合落成式典

「炎立つ」衣装もきらびやかに安東氏時代絵巻パレード

1月

○工藤達男さん（十三漁業研究会）が全国大会へ。水産庁長官賞を受賞

青森県漁村青壮年婦人団体活動実績発表大会でシジミがイの蓄養試験を紹介。県代表として三月には、全国大会で水産庁長官賞受賞。

○五年続きの暖冬にピリオド。平年並みの積雪

○市浦村農協ハウス部会が、やさい優良団体としてJA経済連会長賞を受賞

○村民体育大会冬季大会が装いも新たに、ニュースポーツ（しうらレクリエーションザ・ギネス）としてスタート。農作業の効率アップを図る

○実取大橋が完成。

○東北初の重機マリーナフォークを備え、レジャーボートの保管施設「十三湖マリーナ」がオープン

中の島観光と一体化した歴史とレジャー、やすらぎの場として期待。

○一日ドック（総合健診）に村民八百人が受診

○農業共済事業が広域合併し「北五農業共済組合」が誕生

○村水道事業を引き継ぎ、津軽広域水道企業団西北事業部が経営を開始

○三年余り不在となっていた村収入役に、山田勝明氏が就任

○村教育委員会に学芸員を採用。村主体で十三湊遺跡発掘調査を継続

○北村県知事、葛西県教育委員会委員長が相次いで来村。十三湊遺跡などを視察

○下水道整備事業計画の集落説明会を開催

○人権擁護委員表彰。故・成田永吉氏と相坂舞刀氏（十三）にそれぞれ法務大臣、仙台法務局長より感謝状贈られる

○東日流安東まつり開催。「安東氏時代絵巻パレード」では「炎立つ」衣装により、きらびやかな時代を再現

○観光立村十周年記念総合落成式典が盛大に行われる

過去四年間の公共工事二百六十一件の完成を祝う。

○奥州藤原三代ゆかり市浦サミットを開催

全国からゆかりの地八市町村首脳が遺跡発掘の

2月

3月

4月

5月

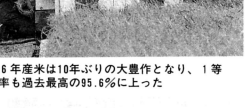
6月

7月

日本を代表する中世の港湾都市遺跡・十三湊

平成6年産米は10年ぶりの大豊作となり、1等米比率も過去最高の95.6%に上った

健康への関心が高まるなか、受診者数が大幅に増加した一日ドック



ヤマトシジミ、市浦牛などの資源を生かす特産品加工センター

着々と工事が進む県道鰺ヶ沢蟹田線（十三・栗山間）

マリンスポーツの基地として期待が高まる十三湖マリーナ

12月

情報交換などを話合う。また、歴史対談ではNHK大河ドラマ「炎立つ」原作者の高橋克彦氏と国立歴史民俗博物館考古研究部助手の千田嘉博氏が、東北文化の再認識を強く訴える。

○姫神・奥津軽十三湖コンサートに六、〇〇〇人

モンゴル歌手オユンナ、中国胡弓奏者許可（シュイ　クウ）「津軽三線奏者浜谷和生や毛越寺延年の舞「老女」により、「北の民の一大叙情詩」を奏でる。また、この日村創作太鼓「東日流衆」がデビュー。

11月

○主要地方道鰺ヶ沢蟹田線（十三・栗山間）の道路改良工事着工

○岩手県平泉町在学少年一行来村。相内小と交流

○青森ねぶた祭りに、村民約五十人が「炎立つ」衣装で参加。安東氏当時の時代絵巻で観客を魅了

○十三湊遺跡発掘調査で、古い段階の安藤氏館の堀や道路跡など多彩な生活跡を検出

○三十日夜、集中豪雨が発生。一時間に雨量77㎜を記録

10月

○印鑑証明事務が改正される

役場（本庁）のみで取扱いとなり、印鑑登録証（カード）を発行。

○十三漁港、脇元漁港局部改良工事着工

○稲作が昭和59年以来の大豊作となる

○第一回市浦村子牛品評会を開催　相沢治さん（磯松）の子牛が初代チャンピオンに輝く

○シジミエキスみそがテレビで全国に紹介され、三週間で一、〇〇〇個を製造

○あすなろボールで、東京ヴィルトーゾ、秋山実希によるハートフル・クラシック演奏会開催

○みちのく銀行小泊支店市浦代理店が、サービス内容を充実させ出張所に昇格

○市浦ジャガーズが朝野球県大会で準優勝

○村創作太鼓「東日流衆」が内海療護園を慰問

○トマト販売額が二年連続で一億円を突破

○さけ河川捕獲率が大幅に上昇

○定住促進のため、公営住宅を三棟新築

○特産品加工センターが完成

生産企業組合によりシジミエキスドリンク、牛のたたきなどを製造。

9月

8月

市浦村民憲章

わたしたちの先人は、海と山と湖とに抱かれたこの地をこよなく愛し、津軽の歴史に輝かしい足跡を刻んできました。

わたしたちは、この伝統を誇りを持って継承し、よりいっそう活力に満ちた創造の精神を発揮して、郷土の限りない発展を願い、この村民憲章を定めたものです。

一、しごとに誇りをもち、くらしの豊かな村をつくります。
一、うつくしい自然を生かし、住みよい環境の村をつくります。
一、らんぼうな言動を慎しみ、文化の香り高い村をつくります。
一、むつまじい人間関係を築き、明るく健やかな村をつくります。
一、らくえんの郷土、市浦村を力を合わせてつくりあげます。

（昭和六十年十一月一日制定）

歳時記

年賀状

年賀状は、元旦の楽しみです。さまざまな人から送られてきた年賀状を、ゆっくりとこたつに入って見る人も多いでしょう。年賀郵便特別取扱制度によって、元旦に年賀状が各家庭に配達されるのです。

欧米では、クリスマス・カードにハッピー・ニュー・イヤーの言葉を添えるのが普通のようです。しかし日本では、クリスマス・カードを出しても、さらに賀状を出すという人もいるのではないでしょうか。日本人は年賀状を、年頭の大切なあいさつと考えているからでしょう。

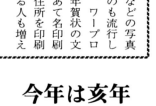
年賀郵便の取り扱いがはじまったのは、明治三十二年です。昭和十年には、年賀切手も発行されました。戦中戦後は年賀郵便の取り扱いが中止されましたが、昭和二十三年に復活し、翌年にはお年玉つき年賀はがきも出て、年賀状の扱いも急激に増えました。

最近は、家族などの写真を年賀状にするのも流行しています。また、ワープロを使って自分で年賀状の文章を作ったり、あて名印刷機能を使って、住所を印刷して出したりする人も増えています。

ところで、外国に住む家族や友人などからも、元旦に年賀人が届くことがあります。なかにはホーム・ファクシミリを利用し、時差を計算して出す人もいます。外国に単身赴任をしていて、日本に戻ってこられないお父さんに、子どもからのかわいい絵入りの年賀状を送る人もいるとのことです。

一月二十六日は、「文化財防火デー」です。この日を機会に国民の財産である文化財の大切さを考え、火災から守るようにしたいものです。

今年は亥年



今年

は亥年（いのしし）―十二支の最後の干支です。十二の方角を示す十二支それぞれに動物を当てたのは中国ですから、中国でも当然亥年です。しかし、おもしろいことに、中国ではカレンダーなどにかかれる絵は、イノシシではなくブタの絵を見かけます。イノシシはブタの先祖ですから、同じようなことなのでしょうか。

さて、イノシシは、日本では北海道、東北、北陸の二部を除いた広い範囲に分布しています。奄美大島や沖縄などには、琉球イノシシと呼ばれている小型のものが生息しています。

猪首（くびぶと）

という言葉があるように、イノシシは首が短い独特の体形をしています。口吻（口先、口元）が長く、その先に円盤状の鼻鏡があります。首から背にかけての剛毛は怒ると立つので、怒り毛と呼ばれます。雑食で、キノコやタケノコなどの植物を食べますし、ヘビやカエル、ミミズなどの動物も食べます。

イノシシは夜間に食べ求めて人里に現れ、栗や芋、稲などを食べてしまいます。芋は鼻鏡を巧みに使って掘り起こし、栗はきば で穴を開けて食べます。また、「ぬたを与え」といって、体に泥を塗る習性があるので、たんぼをあらすこともしばしばです。このため、人間はイノシシを害獣とし、畑やたんぼに垣などをめぐらし、イノシシの侵入を防ぎます。

人間

は、昔からイノシシをさまざまに利用してきました。肉は獣肉を食べることを忌避していた時代から、「山くじら」と呼んで食べてきました。毛はブラシに、歯は印材に、胃液はマムシとともに、皮は靴用に使われています。皮は靴用に使われましたが、それは怒り毛で縫ったようです。

イノシシといえば、猪突猛進という言葉を連想します。これは、いまはゆとりの時代です。暮らしにメリハリをつけ、猪突猛進をしたら、ゆっくり休むようにしたいものですね。